

## 建設改良費の水準について

### 建設改良費の水準のポイント

管路や施設の更新及び耐震化の事業費を平準化し、年間約 1 4 億円（管路の更新及び耐震化 1 0 億円、施設の更新及び耐震化 3 億円、人件費 1 億円）を見込んでいます。

- ・耐用年数は実績等に基づいた使用年数を更新基準とします。
- ・事故時の影響が大きい基幹管路を優先した更新とします。
- ・漏水の影響が大きい 7 5 mm 以上を対象とした更新とします。
- ・ 5 0 mm 以下は、修繕対応とします。

これによって、これまで管路の更新率を約 0 . 7 % から平均 1 % 程度にし、7 5 mm 以上の管路については、概ね 6 0 年で更新できるようにしていきます。

### ※管路延長

	延長	
導水管	25 km	
送水管	86 km	
配水管	1,665 km	50 mm 以下 690 km 75 mm 以上 975 km (うち 350 mm 以上 26 km)
	1,775 km	

※基幹管路 137 km・・・【導水管 25 km・送水管 86 km・配水本管 (350mm 以上) 26 km】

### 【施設更新に向けての方向性】

#### ①施設更新の取組

##### (1)構造物等について

重要度や老朽度の高いものから優先して更新するなど、耐震化計画と整合を図り計画的に更新していきます。

##### (2)管路について

事故時の影響が大きい基幹管路【導水管・送水管・配水本管 (350mm 以上)】を優先して更新していきます。

漏水事故時の影響が大きい 75 mm 以上の配水管を対象に計画的に更新し、基本的に 50 mm 以下の配水管については、修繕により対応を行っていきます。

## ②施設規模の適正化

施設更新にあたっては、統廃合やダウンサイジングを含めた施設規模の最適化に向け取組を行います。

## 【耐震化に向けての方向性】

### ①施設の耐震性向上の取組

#### (1)構造物等について

浄水場、配水施設の重要度や老朽度を勘案し、計画的な耐震化の取組を進めていきます。

#### (2)管路について

基幹管路【導水管・送水管・配水本管(350mm以上)】を優先して耐震化の取組を進めていきます。【耐震化率 34%(137 kmうち 47 km)】

### ②重要な給水施設への供給管路の早期耐震化

主要な病院や避難所等の重要な給水施設への供給管の耐震化を優先的に進めます。

### ③主要な管路の耐震対策として、管路の二条化を計画的に進めます。